

旧毛利高範邸の

保存整備活用について

さとうたくみ

(会員 佐伯市池船町)

はじめに

近年佐伯市中心街の空洞化が進み、大手前寿屋跡地の再開発構想の行方が注目されている。

大手前は毛利高政創建以来ずっと佐伯の中心であり佐伯の顔であった。しかし明治の廃藩置県や戦後の復興期に大きな変貌を余儀なくされ、城下町の景観を多く損なってきた。現在旧城内に残されているのは三ノ丸の石垣と櫓門に過ぎない。また旧城内南東に位置する料亭池彦に三府御門と呼ばれる門と土塀の一部が保存対象物として指定されている。

実は料亭池彦の屋敷地こそが毛利家十三代高範公の邸宅跡である。最近の調査によって当時の庭園、御居間と呼ばれる一棟、土蔵一棟が現存していることが確認され



料亭“池彦”（元佐伯藩主毛利公の舊邸）



佐伯名所

昭和初期観光絵はがき「佐伯名所」三府御門と庭園

た。惜しまれるのは警露館と呼ばれた主屋がすでに建て替えられたことである。

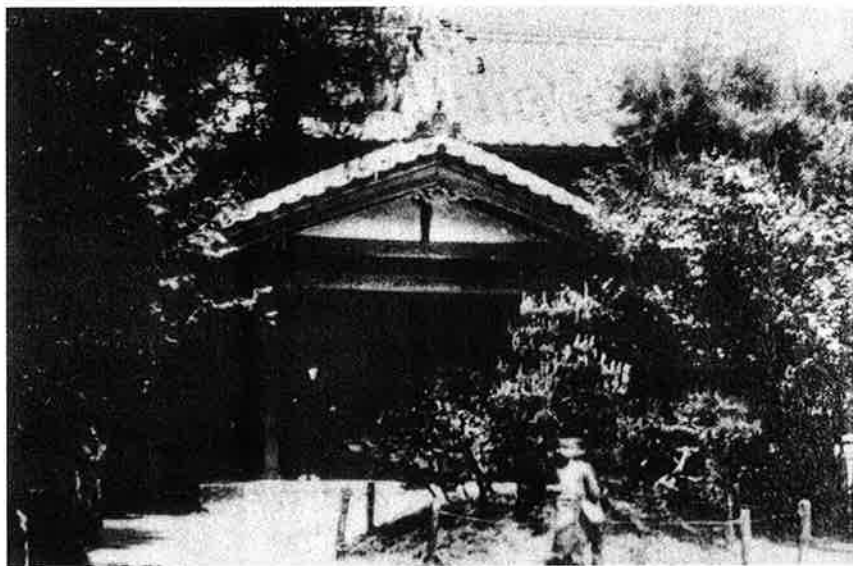
戦前の観光絵はがきに料亭池彦の三府御門や庭園が紹介され、また警露館正面玄関の古写真もある。これらを見ると明治の造営とはいえ旧藩時代の様式をそのままに伝え、庭園の樹木と相まって風格ある城下町の景観を創出していたことがわかる。

この邸宅が造営された時代背景と毛利高範の人物誌を紹介して、旧毛利邸を保存整備活用する意義を考えてみよう。

一、幕末から明治にかけて

「明治四年頃佐伯藩時代屋敷図」を見ると幕末の旧城内の様子がよくわかる。文久2年(1862)に十二代藩主となった高謙は、翌年(1863)三の丸下に先代高泰の隠居所南新御殿を建築した。明治3年(1870)に御表と御奥を増設して自らの居宅とした。これが天佑館である。

その間、明治2年(1869)佐伯藩は版籍を奉還し、藩主毛利高謙が佐伯知藩事に任命されている。ところが明治4年(1871)には廃藩置県の詔勅が下り佐伯県となつ



警露館(旧毛利邸)玄関

明治5年(1872)学制が發布され、佐伯では三の丸御殿に小学校を、藩学四教堂跡に女学校を置いた。後に女学校は共立となり三の丸に移っている。

明治7年(1874)大分県布告により県下八藩の城郭建造物が入札払い下げとなり、佐伯も城郭をはじめ大手門までが解体された。

明治8年(1875)大小区制の実施で佐伯城市(鶴屋村)は改めて第四大区二十六小区佐伯村となった。

明治11年(1878)郡区編成法の実施で海部郡は南北に分かれ南海部郡役所が佐伯村新道に設けられた。

二、毛利家十三代高範

毛利高範(侃次郎^{なわじろう})は慶応2年(1866)肥後宇戸藩主行真の長子として生まれた。毛利家十二代高謙の養子となり、明治9年(1876)11才の若さで家督を継ぎ、同11年(1878)従五位に叙せられた。

明治12年(沿革誌では14年)佐伯小学校の運営危機に際し、高範は一千円を差し出し、向こう5ヶ年間毎月35円を寄附助成することを約し、校運の挽回を図り隆盛に導くよう学務委員に尽力を依頼している。



青年期の毛利高範像(佐伯小学校蔵)

高範は東京の小学校を優秀な成績で卒業し、学習院に入学。ドイツ協会学校や学習院でドイツ語を修得した。

明治17年(1884)子爵を授けられ華族に列した。

明治20年(1887)子爵井伊直安の長女隆子と結婚。

明治21年(1888)23才の高範はドイツに留学し政治・学術・社会・文学について学び、3ヶ年間西欧各地を巡歴して見聞を広めた。

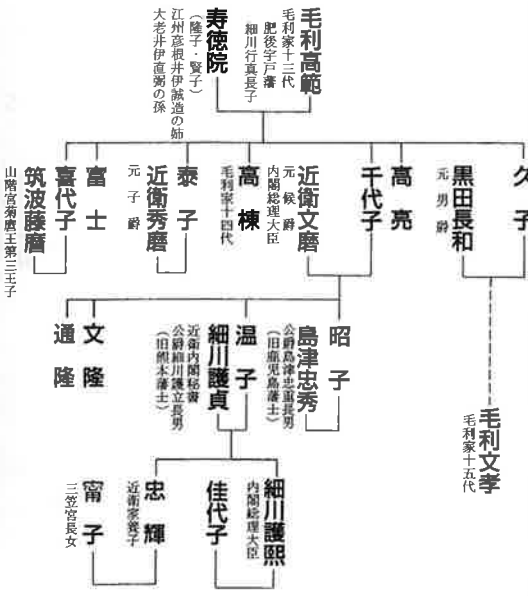
明治24年(1891)帰朝後、正五位に叙せられ宮内省式部官に登用された。宮中に奉仕して一年余、明治26年(1893)辞して佐伯に帰り、毛利邸(警露館)に住んだ。

その後は佐伯町の一町民として庶民と親しく接し、また旧藩主の立場から佐伯の文教を進め、産業振興を奨励指導した。しかし子女教育のため明治40年(1907)一家を挙げて東京へ転居した。

東京へ移った高範はドイツ留学中に修得した速記術の工夫改善につとめ、毛利式速記術を完成して速記学校を開設した。この間、貴族院議員に選任され、長女は黒田男爵家へ、次女は近衛公爵家へ、三女は近衛子爵家へ、五女は筑波侯爵家へ嫁ぎ、家門繁栄は異彩を放った。

一方、故郷佐伯のことも忘れず、大正13年(1924)私財三万三千円を投じて毛利家奉公財団をつくり、その基金から生じる利息を、故郷佐伯の教育・産業の振興に、公共事業の援助につとめた。

- 柑橘改善、漁業振興の奨励金の交付
- 師範学校生徒へ奨学金を毎月交付
- 教育功労者及び善行者へ賞状、記念品贈与
- 私学鶴谷女学校へその経営費の援助
- 小・中・高等学校の優等卒業生の表彰
- 郡連合体育会等に対し優勝メダルの贈与
- 消防機材の整備、道路水道橋梁の改善に補助



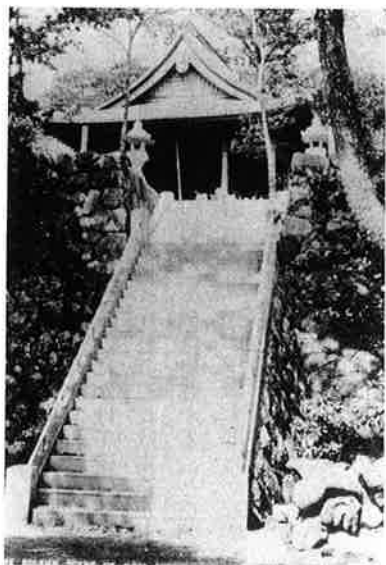
○上京した修学旅行生徒の歓迎・供応
○神社の祭礼に御初穂料基金の供進

昭和14年(1939) 東京都柏木の自邸で病没74才。墓は芝高輪東禅寺の毛利家墓所にある。墓碑名は速記院殿開新高範大居士。なお、毛利高範が収集したドイツ語の書籍六百冊が佐伯市教育委員会に所蔵されている。

(佐伯市史人物誌・宇門市史研究「毛利高範略伝」)

【毛利高範公題額の記念碑等】

- 高野金作君碑(鶴岡海福寺)
- 城山還元の碑(三の丸)
- 鶴岡村忠魂碑(若宮)
- 樹村円治記念碑(津井公園)
- 神崎六平彰徳碑(丹賀浦)
- 尾岩天満社鳥居(弥生)



毛利神社(昭和3年創建)

○石田翁彰徳碑○神の井寄附者芳名碑(日向泊)



鶴岡村忠魂碑(若宮八幡社)



城山還元の碑(三の丸)

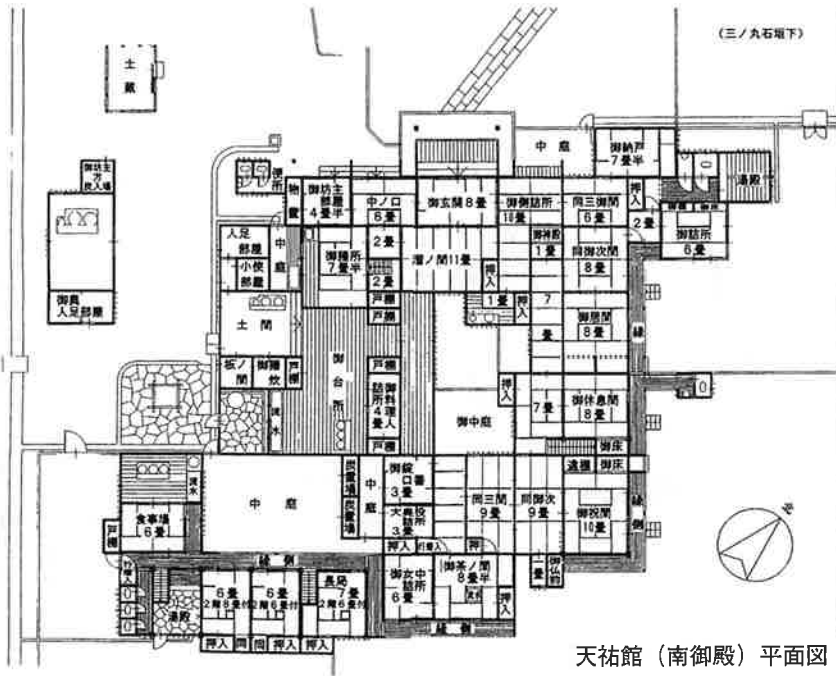
三、旧毛利邸（池彦）の建築概要

毛利高範邸は旧藩時代の三府役所の跡地に、明治23年（1890）～明治26年（1893）にかけて造営されたことが棟札によって確認された。これは高範がドイツ留学を終えて帰朝後、佐伯に帰郷することを前提に、毛利家頭取中根祐胤・山中盛太郎らが邸宅の整備を進めていたと思われる。

ところで創建当時の毛利邸はどのような配置であったか、絵はがきや古写真によって大方の推測はできる。これらの建物は解体された天祐館（南御殿）を移築した可能性が高く、「南御殿絵図」を参考に推理できる。

◎三府御門 元々の三府御門は番所を置く長屋門形式であったが、現存の門は薬医門形式で「南御殿絵図」に記された門の平面が符合している。昭和43年の国道拡幅で門や土塀の後退を余儀なくされた。

◎警露館 門を入ると正面に玄關を構えた警露館が建っていた。明治26年の天長節、国木田独歩は毛利家の邸内警露館の宴会に出席、立食パーティに土地の知名士50～60人が集まった、と記録している。か



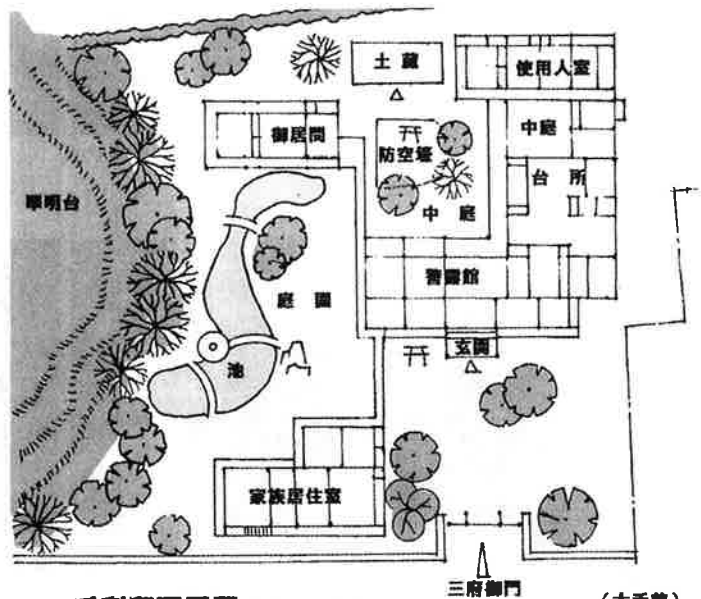
天祐館（南御殿）平面図

なり広い社交場を備えていたことがわかる。これは天佑館の格式ある御表の部分が移築されたと思われる、玄関10帖と溜の間11帖を開放すれば21帖の大広間となる。総建坪は梁間4間・桁行11間の44坪位になる。この建物は戦前に料亭池彦として営業、昭和50年に鉄骨2階建の結婚式場に建て替えられた。

◎御居間 床ノ間8帖・次ノ間6帖の続き間で構成されている。床・違い棚は奥行が浅く書院も付いていないので本式の書院造りとは言えない。しかし柱や長押などの造作材は松の柃目が使われており、旧御浜御殿（現独歩館）と同じく数寄屋風の内部意匠である。

天佑館の御居間は8帖二間続きで、間取りは必ずしも同一ではないが、解体の都合によって改変されたものと思われる。梁間2間・桁行5間半に縁庇が廻っている。御殿建築としては小規模ながら屋根には矢筈紋の付いた鬼瓦や鳥襖などが当時の風格を伝えている。

◎土蔵 梁間2間・桁行4間で一般の土蔵より一間長い。そのため入口を桁行中央に設け二階に上がる梯子段も中央に置いて左右に振り分けて使えるようになっていた。これも同時期に移築されたものと思われる。



毛利邸配置図 (古写真より推定)

(大手前)



御居間屋根全景



矢筈紋の鬼瓦



御居間縁側



御居間床の間



防空壕入口



池のある庭園



土蔵入口

四、旧毛利邸の保存整備活用

前述のように大手前は佐伯の顔であり、より城下町らしい景観整備が必要な場所である。その意味で旧毛利邸の復元整備は重要なポイントとなる。佐伯の教育・産業の発展に寄与された毛利高範公の功績を顕彰するためにも、毛利記念館として整備されることが望まれる。また毛利家遺品を展示する歴史資料館のアプローチとして活用することが可能である。

① 先ず大手前正面の三府御門を修復し土塀を元の姿に延長して再現すること。これは指定物件（歴史的建造物）

でもあり当然しかるべき処置が講ぜられる筈である。

② 毛利邸の社交場（警露館）を復元し毛利記念館の主体とする。これは解体する建物の材料や屋根瓦を有効に利用する。外見を当時の姿に、中は土足で通り抜けが出来るように、使用目的に応じてプランする。例えば受付・観光案内所・売店・喫茶室・城下町ギャラリー等々。

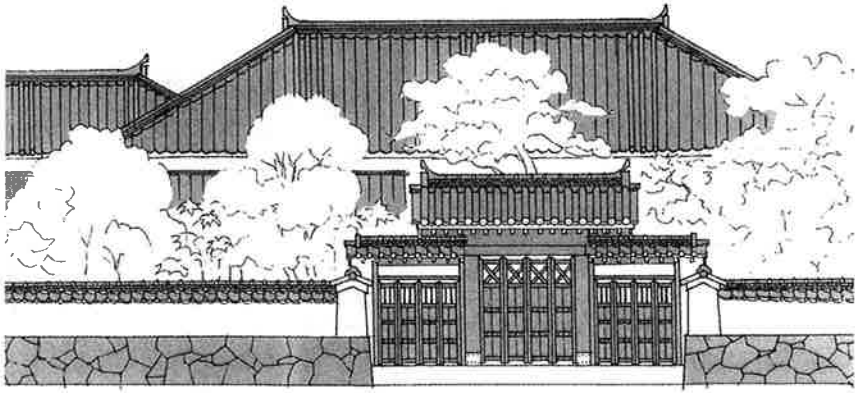
③ 御居間は独立した建物として修復し、毛利高範や山本五十六の肖像を掲げる。茶会や小会議室・休憩所として市民に開放する。

④ 土蔵は修復して佐伯文庫ギャラリー等に活用できる。

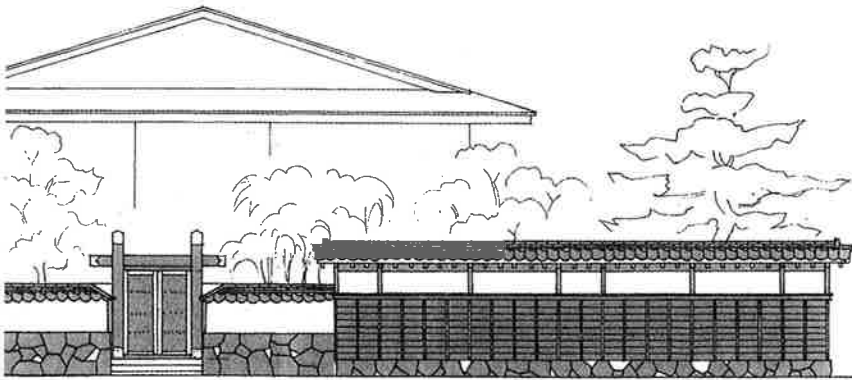
⑤ 庭園は再整備して四阿あずまやを設け小公園として市民に開放する。

⑥ 防空壕は壕内に戦時中の解説板や写真パネルを展示して公開する。

以上、旧城内が歴史・文化・教育・観光の拠点となるよう、考えられる構想を絵にしてみました。待望の歴史資料館建設も目前に迫っています。会員諸兄のご意見ご要望をお聞かせ下さい。

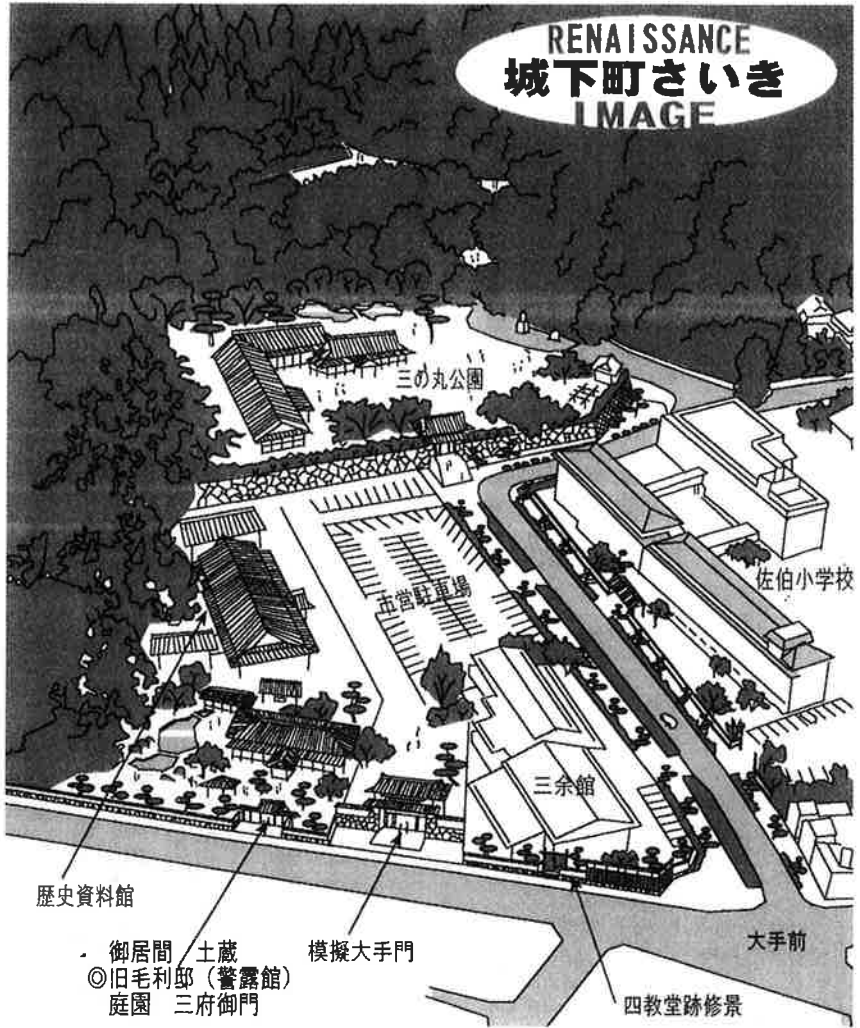


旧毛利邸（池彦）修景図



四教堂跡（三余館）修景図

RENAISSANCE
城下町さいき
IMAGE



旧城内の整備と毛利記念館構想